

# 第2回 東海・北陸ブロック 老健大会

「まめで長生きせんかいな！」

～明るく希望に満ちた高齢社会を目指して～



写真提供：高山市

自 平成18年5月11日 木

至 平成18年5月12日 金

会場 高山市民文化会館

〒506-0053 高山市昭和町1-118-1

高山グリーンホテル

〒506-0031 高山市西之一色町2-180

主催 東海・北陸ブロック老人保健施設連絡会  
後援 社団法人 全国老人保健施設協会  
運営 岐阜県老人保健施設協会

# 重度認知症利用者に対する音楽クラブの効果

## ～ 音楽による精神・言語的变化 ～

富山県 介護老人保健施設 おおぞら

○ 言語聴覚士  
作業療法士

品川 容子  
鎌仲 志保

理学療法士

寺田 光子

### 【はじめに】

認知症の改善に音楽を用いることは、どの施設でも広く行われる手法であり、意欲の向上・社会性の増大などに対する効果があることが知られている。当施設においても重度認知症利用者（以下重度者）数名に音楽クラブに参加してもらい、試行錯誤のうえさまざまな効果を有用に引き出すことに成功したのでここに報告する。

### 【対象】

当施設入所の構音が不明瞭、異常行動、傾眠がち、感情失禁などの症状を持つ7名（要介護度平均 4.1、認知症老人の日常生活自立度Ⅲ a）を対象とした。

### 【方法】

～H17,6 リハビリ室においてリハビリスタッフ3名により毎週1回30分実施。

- ①日付の確認②季節にあった曲を選出③対象者一人に音読してもらう④全員で歌唱
- ⑤全員で挨拶

スタッフは手を握ったり、耳元で歌ったり等の援助を行う。

H17,7～ 季節にあった曲を、歌いやすく昔ながらの童謡に変更。

全員での歌唱を、同じ曲を続けて何回も歌うことに変更。

H17,11～ リハビリ室を誰でも参加できる場所（食堂など）に変更。

### 【結果】

音楽クラブを開始して、日常ではほとんど自発話が聞かれない重度者がスタッフの誘導で声を出して歌い始め、異常行動が減少した例もみられた。曲を続けて歌うことや昔ながらの童謡に変えていくことで、徐々に重度者の声が大きくなった。また場所の移動により、他の利用者が参加するようになったり、他の職種のスタッフも様子を見ることが出来た。さらに声がけや一緒に歌う場面も見られるようになり、場の雰囲気が盛り上がった。重度者の表情が豊かとなっていった。

### 【考察】

今回対象としたのは、日常生活においてほとんど自発的発話がなく、表情も乏しい方々ばかりである。しかし音楽クラブを通して異常行動の減少、表情が豊かになり、自ら声を出して歌うまでになった。これは音楽が精神面に大きな刺激を与え意欲の向上と精神的安定を得たと推測出来る。言語面に於いても発話明瞭度・声量をあげることが出来た。

また数回同じ曲を歌うことや昔ながらの童謡に変えることで、重度者の理解度が高まり、より効果があがった。さらに誰でも参加出来る場所に変えることで、他の職員や利用者の参加が得られ、場の雰囲気を高めることが出来た。参加した他の職員は日常と異なる利用者を見ることが出来た。場所を変えたことにより、小集団の訓練（一人一人に接する）の利点と集団の利点の両方を重度者に与えたと考えられる。

これらのことが音楽が精神面に与えた効果にさらに刺激を与え、より効果的な結果が得られたのではないだろうか。

### 【まとめ】

自発話が乏しい重度者でも皆と歌うことで、精神・言語面に成果をあげることが可能となった。今後は音楽クラブ時だけでなく、日常生活においてもこれらのことを広く反映させていきたい